

〔代表者の声〕

ご挨拶

全農岡山県本部
畜産部長 石原正敬

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびの東日本大震災により多くの尊い命が失われたことに深く追悼の意を表し、被災者の皆様方に対しまして心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

畜産を取り巻く環境は、過去類を見ない状況と考えます。生産コストの半分以上を占める配合飼料は原料の大半を輸入に頼っており円高メリットを受けやすい商品にもかかわらず、世界的穀物市況の高騰と原油高に伴う海上運賃等の物流コストの上昇により平成20年の飼料高騰時の価格と同水準となっています。さらに配合飼料安定基金の補填金も財源が枯渇している中で、今後も予断を許さない状況となっています。

昨年は、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の疾病発生により、風評被害や明日は我が身の危機感があり、生産者の方々におかれましては大変なご苦労をされ、精神的疲労も多大なものであったと感じています。関係機関の方々や生産者の皆様方による防疫措置対策の実施につきましては感謝申し上げます。

一方、長引くデフレ経済の中で消費者心理は安価な畜産物を求める傾向が強くなり、今回の原発事故問題は「食の安全」を根底から揺るがす問題として、畜産物価格に対する将来に不安の影を落としています。特に、放射能汚染稲わら問題については地域が拡大しており、今後の政府の対応いかんによっては、消費者の国産牛肉離れすら懸念さ

れます。

また、EPAやTPPは、わが国の農業の存立を大きく脅かすこととなり、国民の食料安全保障や自給率の向上、農業の持続的発展に向けた取り組みをJAグループとして進めています。全農においては3か年(22~24年度)計画で「国産農畜産物の販売力強化」を全事業の共通目標として取り組んでいます。

全農岡山県本部畜産部は、畜産生産基盤の持続的発展が可能な取り組みを西日本くみあい飼料(株)と連携を取りながら進めています。具体的には、①和牛繁殖基盤の維持拡充ならびに資質向上に取組み岡山和牛のブランド化を進めます。②総合家畜市場の活性化対策や防疫・衛生対策の強化を進めます。③耕畜連携や循環型農業への積極的取り組みを進めます。④地産地消を核とした販売営業力強化等に取組みます。

県下で産出された、「安全で美味しい」畜産物を安心して県民の方々に食べていただき、大消費地にも岡山畜産物ブランドを発信し、県下の畜産生産者の方が元気に経営持続できるように、関係機関のご理解とご協力を得ながら事業を展開したいと考えています。

最後になりましたが、本県畜産事業がますます発展されるとともに皆様方のご健勝ご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。